

事務事業マネジメントシート（21年度実績と22年度計画）

22年度予算確定後 平成 22 年 3 月 16 日 作成
21年度決算把握後 平成 22 年 月 日 作成

事務事業名		介護保険給付費準備基金積立事業						☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり				所属部	健康福祉部	課長名	後藤博康	
	施策	16	高齢者・障がい者の自立促進と社会参加				所属課	高齢者支援課	担当者名	緒方寿雄	
	基本事業	50	高齢者支援体制の充実				所属班	高齢者保険班	(内線)	2121	
予算科目		会計	款	項	目	事業連番	法令根拠	介護保険法		成果優先度評価結果	12
		30	6	1	1	10480				コスト削減優先度評価結果	-
終了、開始年度		☐ 21年度で終了 ☐ 22年度から開始					事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返(開始年度 年度) ☐ 期間限定複数年度 (年度)			

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	介護保険給付費の20%を超える保険料収入があった場合に、その超過額を基金に積立て、後年度の保険料収納額に不足が生じたときにその不足分を補填するために当該基金から繰入を行うものである。 平成21年度末現在の基金残高は約6千6百万円
【業務の流れ】	①保険料に剰余が発生した場合の基金への元金積立事務及び基金管理による利子積立事務。 ②不足が生じた場合の取り崩し事務
【主な予算費目】	積立金、繰入金
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	議会からは現在の積立金額がどれくらいあるのかよく尋ねられる。

1 現状把握の部(DO, PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標	
① 手段(主な活動) 21年度実績(21年度に行った主な活動)(DO)	22年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
基金利子が約30万円あったので、歳入予算の財産収入で受け入れ、歳出予算の基金積立金で30万円積み立てた。	基金利子が約30万円あると思われるので、歳入予算の財産収入で受け入れ、歳出予算の基金積立金で30万円積み立てる予定である。
④活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標	(単位)
⇒ア介護給付費準備基金積立金累計	千円
②対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等	⑤対象指標(対象の大きさを表す指標)=②の指標 (単位)
介護保険特別会計	⇒ア介護保険特別会計の予算規模 千円
⇒イ	⇒イ
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	⑥成果指標(意図の達成度を表す指標)=③の指標 (単位)
介護保険特別会計が黒字になった時積み立てができる。	⇒ア積立額 千円
⇒イ	⇒イ
*⑥成果指標設定の理由と平成22年度目標値設定の根拠 意図の介護保険特別会計が黒字になった時積み立てができることから積立額とした。 21年度決算の見込みではあまり黒字が見込めないため利子分の積立とした。	

(2) 各指標・総事業費 の推移			単位	19年度 実績(決算)	20年度 実績(決算)	21年度 目標(当初予算)	21年度 実績(決算)	22年度 目標(当初予算)	23年度 予定	24年度 見込	
④ 活動指標	ア	千円	61630	65991	65991	66291	66591	66891	67191		
	イ										
⑤ 対象指標	ア	千円	2666488	2793718	2886146	2959224	3155791	3290000	3430000		
	イ										
⑥ 成果指標	ア	千円	61630	4361	0	405	300	300	300		
	イ										
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			都道府県支出金	千円							
			地方債	千円							
			その他	千円	61,630	4,309	1	405			
			繰入金	千円							
			一般財源	千円				291	300	300	
		(A) 事業費計	千円	61,630	4,309	1	405	291	300	300	
		(A)のうち指定経費	千円								
		(A)のうち時間外、特勤	千円								
	人件費	正規職員従事人数	人	1	2	2	2	2	2	2	
		延べ業務時間	時間	10	13	13	15	15	15	15	
		(B)人件費計	千円	40	52	52	60	60	60	60	
		トータルコスト(A)+(B)	千円	61,670	4,361	53	465	351	360	360	

総トータルコスト	
全体計画	
～	年度

総トータルコスト	
全体計画	
～ 年度	
(期間限定複数年度のみ記載)	
0	
0	
0	
0	

谷志市

事務事業名	介護保険給付費準備基金積立事業	所属部	健康福祉部	所属課	高齢者支援課
-------	-----------------	-----	-------	-----	--------

2 評価の部 (SEE)

*原則は21年度の事後評価、ただし複数年度事業は21年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①21年度目標達成度評価 事務事業の前年度実績は前年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した	☐ 達成しなかった ⇒【理由】
	②22年度目標達成見込み 事務事業の本年度目標値に対して本年度の見込みはついているか？	☒ 目標達成見込みあり ⇒【理由】	☐ 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】	☒ 向上余地がない ⇒【理由】
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】	☐ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】	☒ 削減余地がない ⇒【理由】
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】	☒ 削減余地がない ⇒【理由】
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】	☒ 公平・公正である ⇒【理由】
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事務事業のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行出来ないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】	☐ 役割分担は適正である ⇒【理由】

3 評価結果の総括 (SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

21年度より、保険料(基準額4,200円から4,700円)を上げたので、基金の積立が出来ると思っていたが、介護サービス報酬が3%引上げられたことによって、介護給費が大きく増加したので、基金の積立が出来なかった。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

☐ 廃止

☐ 休止

☐ 目的再設定

☐ 事業統廃合・連携

☐ 事業のやり方改善(有効性改善)

☐ 事業のやり方改善(効率性改善)

☐ 事業のやり方改善(公平性改善)

☒ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(2) 改革・改善による期待成果

(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		○	
	低下			

(3) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策